

「情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用」の編集にあたって

阿久津 達也[†]

第10号は2003年1月16～17日に同志社大学情報センターにおいて開催された、情報処理学会数理モデル化と問題解決(SIGMPS)研究会主催「進化的計算シンポジウム2002」で発表された研究に基づいて構成されています。本特集号は招待論文1編、一般論文13編、事例紹介論文1編の計15編から構成されています。なお、一般論文のうち2編はそれぞれ研究会連動論文および非連動論文として以前に採択されていた論文ですが、論文内容を考慮した結果、本特集号に掲載するのが適切であると判断しましたので、著者の了解のうえで本特集号に掲載いたしました。招待論文1件を含め本特集号への投稿論文数は20件でしたので、以前に採択されていた2件を除き、採択率は65%となります。第10号までに採否が決定しました論文の採択状況は138編/249編ですので、総採択率は約55%となります。本特集号の採録率はこれまでより少し高い水準となっていますが、通常の号と同じ採択基準で論文評価を行っておりますので、シンポジウム特集号ということもあり高い水準にある論文が数多く投稿されたためと思われる。なお、本特集号の掲載論文15編の担当編集委員は掲載順で、廣安知之、棟朝雅晴、廣安知之、廣安知之、横内寛文、庄野逸、廣安知之、坂本比呂志、廣安知之、張漢明、廣安知之、廣安知之、山崎浩一、高橋勝利、廣安知之となっています。

ところで、第9号のまえがきにおきまして5月研究会連動論文の採択状況を4編/5編と書きましたが3編/4編の誤りであり、第9号までの採択状況は125編/229編となります。誤りがありましたことを、お詫びいたします。上記の第10号までの採択状況は誤りを修正した結果に基づいて計算したものとなっております。

第10号は、昨年度に発行した第7号(「進化的計算シンポジウム2001」特集号)に続く進化的計算に関する特集号であり、第7号同様、国内において進化的計算を活発に研究しているグループからの論文が数多く掲載されていますので、国内における進化的計算

研究の現状を把握するのに有用であると思われます。掲載されている論文の内容は、進化的計算に関する理論、アルゴリズム、実問題への応用など幅広いものとなっております。各論文では、進化的計算を核としながらも「数理モデル」および「応用」について議論されており、本論文誌の趣旨に合致するものとなっております。

本特集号では対象分野が限定されておりますが、本論文誌の通常号では「数理モデル」が関係すれば、分野を限定せずに基礎理論から応用まで幅広い論文を取り扱うという方針をとっております。そのため、他の論文誌では「分野違い」といって門前払いとなるような論文であっても、適切な査読者を見つけて迅速に評価するように心がけています。また、論文の査読や審査にあたっては、新規性と有用性の両者を求めるのではなく、どちらか一方に十分な価値があれば、それを高く評価するという方針を取っております。さらに、いったんは不採録として判定しても価値があると認められる論文については再投稿、再々投稿を促すということも特徴となっております。

本特集号は平成15年度における2号目となりますが、今年度は合計で3号の発刊を予定しております。来年度も特集号を含め3号発行を予定しております。配布部数につきましては、各号とも、これまでどおり1,000部を予定しております。なお、論文誌の定期購読制度もありますので、ぜひ、こちらもご利用ください。また、研究会開催記録、研究会登録案内、投稿案内などに関する最新の情報はすべてWWWページ上に掲載しております。すべての情報は研究会ホームページ(<http://www.ipsj.or.jp/sig/mps/>)よりたどることが出来ますので、SIGMPS研究会および本論文誌に関しては、そちらをご参照ください。

最後になりますが、「進化的計算シンポジウム2002」の開催のためにご尽力された三木先生、および、本特集号の編集作業のとりまとめを行ってくださった廣安先生に、厚くお礼申し上げます。

[†] 情報処理学会論文誌「数理モデル化と応用」編集委員長
京都大学